

魚津市定例記者会見 10月

日時：平成27年9月30日（水） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、

富山テレビ、NHK、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、
企画政策課長

1. 市長からの説明事項

(1) 市長のタウンミーティング、今月4会場で完了

7月3日に松倉地区からスタートしたタウンミーティングは、13地区のうちこれまでに9地区で実施し、今月の4会場で完了する。開催日程を地区の希望をもとにきめたこともあり、これまでよりも参加者が多く、どの会場も50人前後とたくさんの市民の皆さんにお集まりいただき、率直で貴重なご意見をたくさん頂戴している。

市民の皆さんの関心事は、災害、市の将来像などが多かった。今年度から、魚津市版の地域創生ともいえる地域振興会が全地区で発足し、地域でできることは地域でやろうという気運が高まってきたことはありがたいと思っている。

(2) 芸術、文化、スポーツの秋

10/4 地区住民運動会

10/17～18 魚津産業フェア〇〇魚津

10/24～25 市民文化祭

10/31～11/5 魚津市美術展

(3) 魚津市総合教育会議の開催

法の改正によって今年度から新しい教育委員会制度が始まり、明日10/1に魚津市総合教育会議を開催する。これまでの教育委員会会議とは異なり、市長が会議に入って教育委員と意見を交わすことになるが、魚津市教育基本計画などを皆さんと確認し、年度末までには教育大綱を新たに定めることになる。

(4) 千葉ロッテマリーンズ 石川歩投手 昨年を上回る12勝目

昨年はパ・リーグの新人王になり後援会で祝賀会を開催した時に、来シーズンは背番号の「12」勝くらいは挙げてほしいと話していたところ、先日なんとか12勝目を挙げ大変嬉しく思っている。後援会ではこの夏に応援ツアーも行ったのでそれも功を奏したかと思う。改めて活躍を期待したい。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「台北国際旅行博覧会出展」

《記者からの質問》

市長も参加されるということで、意気込みをお聞かせ願いたい。

《回答》

台湾は親しみやすい雰囲気のある土地柄。直行便を利用して台湾から富山へ来てもらい、魚津へも足を運んでもらえるように魚津を十分に紹介してきたい。ブース出展にあわせて企業も訪問してきたい。

《記者からの質問》

特にどんなところをPRしたいか。

《回答》

蜃気楼など興味をもって見ていただけるような特色の他にも、魚のまちであることをPRしたい。

《記者からの質問》

過去に海外でのPR実績はあるのか。県内他市町村の参加予定は。

《回答》

上海万博の「富山県の日」にせりこみ蝶六が参加した時にPRしたことはあるが、魚津市単独でブースを出すのは初めてではないか。これまでに岐阜県高山市などいろんな自治体が参加している中、魚津市も今回初めて参加し、PRに取り組むことになった。県内の参加自治体は魚津市だけではないか。

台湾から立山への観光客は多い。立山だけでなくさらに県東部へ足をのばしてもらおうよう民間と一緒にPRする。

《記者からの質問》

現地の旅行プランに組み込んで、団体客を受け入れることを想定しているのか。

《回答》

そういった狙いもあり、市内の宿泊業者も同行して旅行プランを提案する予定にしている。

《記者からの質問》

立山黒部を世界遺産にという運動、また立山黒部ジオパークの中で魚津市のスタンスをどのように考えているか。

《回答》

立山黒部ジオパークは富山県東部全体広域のジオパークというイメージ作りをしており、その中で地域間競争みたいなことをしないほうがいいと思う。立山黒部という名前からすると「立山」「黒部」だけかと思われがちだが、地質学者の視点では、片貝川は研究材料が豊富だと言われている。地元の市民がそこまでの認識には至っていないかもしれないが、水循環ツアーなどを通じて理解を深め、来訪者をガイドできるくらいになればと思う。

今回、台湾での出展は魚津市単独だが、今後は観光圏事業などでジオパークをP

Rする機会も増やしていければジオパークの認知度も高まると思う。

《記者からの質問》

これまでに展覧した他の市町村で効果が上がっているところはあるのか。

《回答》

ここでは分からないが、高山市が展覧していたので情報交換し、効果的なPR方法のアドバイスなどもいただきたいと思う。また、「たてもん」がユネスコの文化遺産登録を目指していることもPR材料にできないか検討したい。

「マイナンバー」

《記者からの質問》

魚津市としての対応はどのようになるか。住民に不安があるとすればどのようにするのか。

《回答》

タウンミーティングの会場で担当課職員が説明をしているが、情報漏えいに不安があるといった意見が多かった。また、例えば認知症の高齢者にどう認識させるのか、とか一人暮らし高齢者には理解しにくいといった声もでていたが、国で決めたことなので理解を求めるしかない。

情報の漏えいを防ぐために、業務用のパソコンをインターネットと遮断する。また、高齢者への対応では民生委員さんをお願いして家を廻ってもらっている。

「北陸新幹線『つるぎ』の延伸」

《記者からの質問》

黒部市からJRに『つるぎ』の延伸を要望されたということだが、魚津市、他市町村でこれに協力する動きはないのか。

《回答》

黒部市から協力を求める動きはないようだ。ただ、新川地域推進協議会として要望はしている。

『つるぎ』は主に関西方面への移動に使われるので、福井県内の新幹線ルートを早く決めることが肝要だと思う。ルート案が固まれば北信越の市長会で結束して延伸を求めていると話している。